



9 番
伊藤 厳 悟 議員

営業休止となっている位山自然の家 の今後について

①施設設置目的と利用実績は

◆市長公室長

位山自然の家は、小中学校の児童・生徒並びに青少年の健全な身の発達と、恵まれた自然環境のもとで集団宿泊学習研修活動を促進することを目的としています。利用実績は、平成30年度で宿泊・日帰りを含め年間82団体、4676人の利用がありました。この内、下呂市の中学校は6校中1校、小学校では13校中8校が利用しています。

②耐震調査の結果を受けて今後の対応について

◆市長

耐震の部分で危険性が高いため急きよ休止とさせていただきました。現在、耐震の改修するにあたりどれくらい費用が必要となるのか業者に調査を依頼しています。今までお勤めをいただいております。した地元の方の雇用も含め、いろいろな面から考えていかなければなりません。まずはかかる経費をしっかりと確認したうえで、地元

方のご意見をいただきながら今後の対応を関係部局とともに、進めていきます。

昨年の豪雨災害後の復旧工事について

工事内容と進捗状況について

◆農林部長

萩原町上呂地内の崩落箇所ですが、萩原中央用水の水路本体は、かんがい期前に復旧を完了し既に通常の水量で通水しています。現在、管理道の路側ブロック積工事などを実施し、7月末の完了を予定しています。治山関係の法面復旧については、6月に工事契約を締結し、法枠工やモルタル吹付工を行っていくと県より伺っています。

皇樹の杜の整備について

植樹祭後の管理の状況と今後の対応について

◆農林部長

皇樹の杜の管理は、芝生の除草、刈込などの管理や、樹木の剪定、施肥、病虫害防除などや、周辺の林道や水路の草刈り、関係者により植えられた記念植樹の育成管理など、幅広く施設管理業務を県の補助金を活用して行っています。今後は周辺の樹木も太く成長し混み合ってきたので、間伐の実施や、老朽化した敷地内常設大型テントなどの、整備を考えています。



7 番
宮川 茂 治 議員
(日本共産党)

上原新最終処分場予定地下流の大淵三原地区住民に対する説明などについて

出前講座を行っていたのだが、少人数で住民に対する説明は不十分であると考えられる。町内会などで要請があれば、住民に説明会を行うことができるのか。灰の水処理の方法についてももう一度詳しく説明していただきたい。

◆環境部長

先月、上原地区以外の方から説明会の問い合わせがありましたので、自治会として開催の日程調整をしていただければ説明に伺いますとお答えし、現在開催に向け準備しています。次に水処理方法の再説明と言う質問ですが、今年の2月19日の全員協議会でもご報告しておりますが、最終処分場の埋め立てた灰から出た水については、くみ出して市内の水処理施設で処理する方針を進めています。安全性について問題はありませんが、

案内について

駅などに外国語の標識や案内などが不十分で、せっかく来られても主要な見どころがわからずじまいになっていることがある。一番多く通る場所に外国語の地図を設置する必要があるので。

◆観光商工部長

外国人観光客への案内対応については、平成29年度に下呂温泉街及び合掌村すべての「観光サイン案内看板」を日本語、英語、簡体字、繁体字、韓国語と多言語に対応した案内表記で整備しています。道標看板にはピクトグラム(トイシ、足湯、避難所など)を追加し、外国人観光客にわかりやすい表記となつていきます。また、主要なみどころへの案内は、人通りの多いしらすぎ橋付近に多言語の地図を設置しています。

六ツ見橋架け替えのため県に要請を

幅が狭く、対向車に注意しないといけない状況である。早く架け替えできるようにできないか。

◆建設部長

踏切部分内は、歩道もないため、今年度県で、歩道を設置するための設計をすることになっていきます。橋梁本体の整備については今後、県に要望していきます。

下呂地区主要観光地域の外国人観光客に対するわかりやすい標識や



13 番
中島達也 議員

市営住宅の高齢者対策について

市内には多くの市営住宅があり4階、5階の高層住宅もある。高齢者に配慮した入居条件の設定や、バリアフリー化などの考えを伺う。

◆生活部長

平成17年の公営住宅法施行令改正以後に、下呂市においても高齢者の方に配慮した経緯があり、今後とも同様に適正に対応していきたいと考えています。しかしながら、どうしても低階層に空きがない場合には、ご理解をお願いしています。バリアフリー化のご質問ですが、すべての高層住宅へのエレベーター設置は、建物の構造、耐用年数などを考慮して判断することとなりますが、今後市営住宅の居室などにおいて、どうしても修繕が必要な場合が出てくると思います。その場合、段差解消など高齢者に配慮したバリアフリー化を可能な限り進めていきたいと考えています。

運転免許更新の高齢者講習、市内受講の危機

1998年の道路交通法改正により、70歳以上の高齢者は運転免許の更新の際、高齢者講習が義務付けられている。高齢者講習を受講できる市内唯一の教習所は、少子化など生徒数の減少により経営危機にひんしている。教習所が廃業となれば多くの高齢者は高山市など市外で受講しなければならぬ。官民一体となって早急に対策を講じなければならない。対応を伺う。

◆生活部長

高齢者の安全運転に対する取り組みを継続しつつ、関係団体のご協力を得ながら、効果的に市内の自動車教習所を利用していただくように働きかけていきます。また市としては、地元にある自動車教習所は必要であると感じていますが、現在高齢者の講習支援策について、関係部署と協議しています。



高齢者講習



8 番
中島博隆 議員

各小中学校へのエアコン設置に伴う今後の授業対応について

去年のような猛暑日が続くと教室内と教室外の授業では大きな温度差があり、児童・生徒の体調管理が大変だと思うが、何らかの対応は考えているのか。

◆教育長

下校時間の少し前に運転を止め外気に慣れるなど配慮すること、エアコンで涼しくなったからと、これまで行っていた水分補給など、熱中症対策を怠ることがないように、子どもたちの体調に引き合っって正しい暑さ対策を行うことなど、適切な対応をするよう指示しています。

新規採用職員の応募が少なかった下呂市役所の今年度の対応と、次年度に向けての考えは。

少子化の影響で、どの業種においても従業員の不足が課題となっている。下呂市職員についてもその傾向が見受けられるが、若い職員の確保に向けた対応を伺いたい。

◆総務部長

市の採用試験は公務員試験対策

不要の教養試験を採用するなど、受験希望者の拡大に努める一方、今年度は確実な職員確保に向け、大卒者などの二次試験日を2週間早めることで合格決定を早め、10月実施の高卒程度の試験採用につなげるものとしています。また、昨年度から高校卒のU-Jターン者の中途採用の社会人枠(35歳まで)を新たに設けています。

公の施設の見直し方針に基づく進捗状況は

金山地域に所在するゆったり館、道の駅かれん、菅田・東の各公民館の状況について伺いたい。

◆金山振興事務所長

金山地域内のゆったり館、道の温泉駅かれんは、公の施設の見直し方針において、来年度から譲渡民営化することとしています。

◆市長公室長

菅田・東公民館は、新耐震構造には適応していません。公の施設見直し方針は、地域への譲渡を検討する施設に位置づけられておりますが、現施設の耐震や大規模改修について現在のところ行う予定はありません。活発な公民館活動を維持するため、公民館機能の他施設への移転、市が所有する他施設や地域の集会所、場合によっては空き家の活用なども視野に入れ、所管課の中で検討しています。



10 番
一木良一 議員

地域医療の確保、充実のための施策について

医師の招聘対策と住環境整備は、

◆健康福祉部長

下呂市の医師招聘対策としては、下呂市医師確保奨学資金貸付制度を設けています。また下呂温泉病院の産婦人科医師の招聘に対する補助を行っています。次に住環境整備は、小坂診療所の医師3名は市所有の医師住宅にお住まいです。金山病院医師7名は、市所有の古い医師住宅にお住まいのため、本年度、旧警察官舎を医師住宅に改修し、利用いただく予定となっています。下呂温泉病院の医師に対する住環境の整備は、住宅の確保のための協力にとどまっているのが現状です。

旧下呂温泉病院跡地活用について

◆市長

平成27年度に策定した下呂市地域再生計画で、下呂温泉のシンボルとなるランドマークの構想や二次交通の発着所と駐車場が計画されました。しかし国の方針が変わり交付金が廃止となり、財源の確

保が厳しい状況になりました。そんななか、J Rの利用者も増え、駅舎が狭いことや、歩道も整備されていないこと、バリアフリー化となっていないなどの問題もあり、J R東海と協議をし、幸田地区の活用も含め検討していきます。

小坂町大島谷橋の進捗状況について

◆建設部長

平成30年度に地元地権者のご協力をいただき、用地買収を完了しました。現在、橋の下部工事の発注準備を行っています。令和2年度には上部工事を施工して完成できるように進めています。

有害鳥獣つなぎ処理施設完成後の利用状況と今後の計画について

◆副市長

有害鳥獣処理施設については、3月下旬に施設が完成しました。5月連休明けより試運転を行い、6月を目途に運用を開始する予定です。完成後、運用までに時間を要していますが、何分他の自治体においても前例がないことや、機械操作に細心の注意を払う必要がありますので、準備に時間を要していることにご理解をいただきたいと思えます。



13 番
中野憲太郎 議員

小水力発電の取り組みを

下呂市の豊富な水源を生かし、萩原中央用水などの水路を活用した環境に優しい小水力発電を実施したかどうか。有利な国・県の補助で取り組むことができるか。聞いており、市長の決断ひとつで早急に取り組むことができるが、市長の考えをお聞きしたい。

◆市長

平成24年から市内2カ所において事業化の可能性に関する調査を行いました。その結果、萩原中央用水に有効性が認められ、土地改良区が事業主体となり実施に向けた検討を進めていきましたが、設備投資における回収や維持管理の問題などさまざまな将来的リスクから事業実施を見合わせた経緯があります。そんな状況の中、一昨年度に飛騨市において農業用水を利用した小水力発電が開始され、安定的な経営を維持していることがわかってきたことから、改めて小水力発電導入の可能性について検討を進めていきます。

益田清風高校への入学者確保について

近年、益田清風高校の入学者は定員割れが続いており、清風高校の将来を不安視する声もある。市内唯一の高校を市としてどう盛り上げていくのか。

◆市長

現在問題となっている登下校の時間帯のアクセスについて、J Rや関連バス会社に要望していきます。また萩原は、小中高がある学園都市です。居場所作りとして、図書館整備についても、しっかり検討していきます。

◆教育長

中学校を卒業して、進学する高校を選ぶのは、あくまでも本人であり保護者です。高校卒業後の進路の状況を伝えることや、頑張っている益田清風高校の生徒の姿を見せてくれることなど、地道で継続的な取り組みが、地元の小中学生や保護者の皆さまが、あこがれをもって益田清風高校へ行きたい、と思える状況を作ってくれるのではないかと思います。

